

当院における腹腔鏡下仙骨 前面固定術の初期経験

北九州総合病院 ウロギネコロジーセンター

新井隆司 野村昌良

小田瑞 酒井直美 池田洋

はじめに

当院ウロギネコロジーセンターでは2008年4月から骨盤臓器脱に対してTVMを累計約620例行っている。

近年、欧米では2011年7月のFDAからの経膈メッシュへの警告の流れを受け、骨盤臓器脱の治療は腹腔鏡下仙骨膈固定術(以下LSC)もしくは仙骨子宮固定術(以下LSH)が主流になりつつある。

当院においても2013年3月より当術式を導入し、現在まで16例を経験した。

目的

当院で経験した16例の患者背景を報告する。

術前と術後2か月のPFDI-20及びウロフロメトリーの値を比較検討したので報告をする。

手術時間の推移を報告する。

患者背景

2013年3月23日から2013年10月26日まで
に腹腔鏡下仙骨前面固定術(LSCと
LSH)を施行した16名

平均年齢: 63.7歳(51~73歳)

平均体重: 50.4kg(36.8~71.4kg)

平均身長: 152.1cm(146.0~164.4cm)

術前Barden & Walker分類

の平均値: 3.33, 3.53-3.13-3.07, 3.33

手術前後の比較

術前と術後2か月のPFDI-20及びウロフロメトリーの値を比較した。

ウィルコクソン符号付順位和検定でP値0.05以下を有意差ありと判定した。

PFDI-20

Q1 - 6 : 骨盤臓器脱の症状

Q7 - 14: 排便に関する症状

Q15-20: 排尿に関する症状

0	ない
1	困らない
2	少し困る
3	中程度困る
4	かなり困る

PFDI-20: Q1-6:骨盤臓器脱の症状

		術前 平均 スコア	術後 平均 スコア	P値	結果
Q1	普段、下腹部に違和感を感じるか	1.938	0.455	0.006	優位に改善
Q2	普段、骨盤部に重苦しさを感じるか	1.688	0.300	0.013	優位に改善
Q3	普段、膣部に下がってくるふくらみを感じるか	3.063	0.091	0.0007	優位に改善
Q4	排便の時、便を出しきるために膣や肛門周囲を指で押さえなければならないことがあったか	1.125	0.545	0.124	変化なし
Q5	残尿感を感じるか	2.250	0.273	0.001	優位に改善
Q6	排尿時や尿を出しきるために膣の膨らみを指で押し上げなければならないことがあるか	1.688	0.273	0.012	優位に改善

PFDI-20: Q7-14:排便に関する症状

		術前 平均 スコア	術後 平均 スコア	P値	結果
Q7	排便のために強くいきむ必要があるか	1.125	1.273	0.554	変化なし
Q8	排便後、残便感があるか	0.8125	1.000	0.529	変化なし
Q9	便が有形便時に、便もれすることがあるか	0.250	0.273	0.715	変化なし
Q10	軟便のとき、便漏れがあるか	0.438	0.455	0.600	変化なし
Q11	普段コントロールできずおならを漏らすことがあるか	1.250	0.455	0.038	優位に改善
Q12	排便時痛があるか	0.500	0.818	0.917	変化なし
Q13	突然我慢できない便意を感じ、トイレに駆け込むことがあるか	0.938	0.727	0.345	変化なし
Q14	排便の途中あるいは排便後に、脱腸などの症状があるか	0.875	0.455	0.043	優位に改善

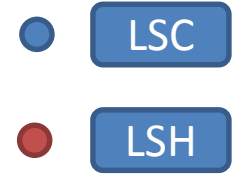
PFDI-20: Q15-20:排尿に関する症状

		術前 平均 スコア	術後 平均 スコア	P値	結果
Q15	普段、頻尿でトイレの回数が多い	2.188	0.455	0.003	優位に改善
Q16	我慢できない尿意を感じ尿漏れを起こすことがある	1.313	0.889	0.028	優位に改善
Q17	咳やくしゃみ、笑ったときに尿が漏れる	1.375	0.636	0.010	優位に改善
Q18	普段、少量の尿漏れがある	1.125	0.545	0.083	変化なし
Q19	膀胱を空にすることが難しい	1.067	0.273	0.059	変化なし
Q20	下腹部や外陰部に痛みや不快感がある	1.313	0.636	0.051	変化なし

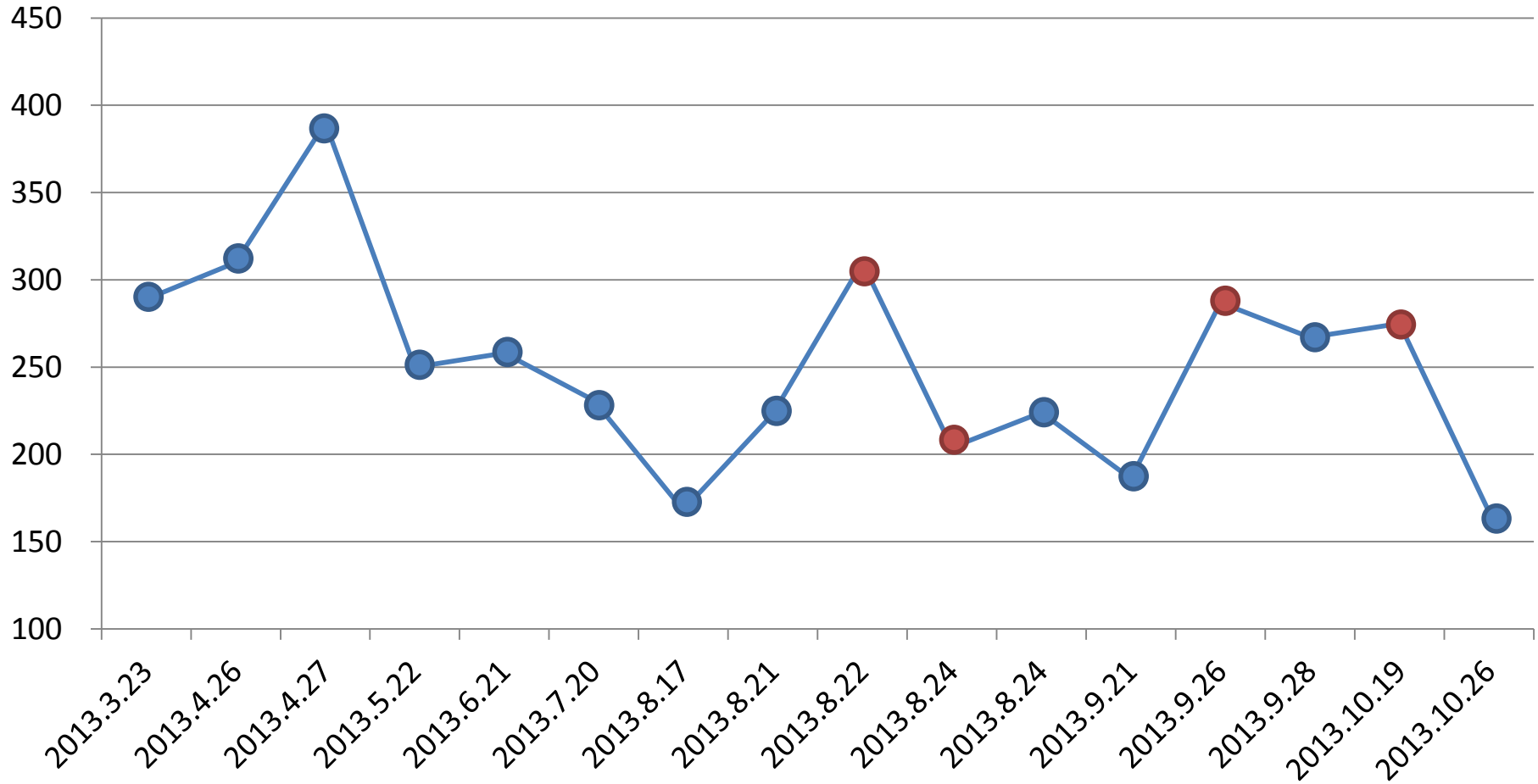
ウロフロメトリー

	術前 平均値	術後 平均値	P値	結果
Qmax(ml/sec)	18.743	24.436	0.712	変化なし
Qave(ml/sec)	11.750	15.809	0.856	変換なし
排尿量(ml)	339.163	379.000	0.501	変化なし
残尿(ml)	50.000	18.182	0.001	優位に改善

手術時間の推移



(分)



手術成績結果①

術後に骨盤臓器脱症状の6項目中、5項目が優位に改善した。

術後に排尿症状の8項目中、2項目が優位に改善した。

術後に排便症状の6項目中、3項目が優位に改善した。

骨盤臓器脱症状、排尿症状、排便症状のいずれも悪化した項目は無かった。

手術成績結果②

術後に残尿が優位に減少した。

平均手術時間：252分(167～390分)

平均出血量：30.3ml(5～150ml)

合併症：なし

術後再発：なし

結語

今回我々が新たに導入した腹腔鏡下仙骨前面固定術(LSCとLSH)について報告した。

安全に施術でき、術後も満足できる結果となった。

今後も症例数を重ね、長期成績の評価及び経腔手術との比較をしたいと考えている。